

教科等研究会（中学校音楽部会）

平成29年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

イメージを伝え合い、協働する喜びを感じる音楽科授業

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
5/25	10	広安 西小	9/15	益城 中	上野教諭	11/16	嘉島 中	講習 熊大 山崎浩隆 准教授	1/26	広安 西小	実践報 告会

3 研究の概要

(1) 研究の内容

「研究テーマについて」

新たに学習指導要領に「共通事項」が示され、音色やリズムなどの音楽を形づくる要素を手がかりに、思い描いたイメージを音楽表現へと具現化する授業を進めていくこととなった。これまでは「共通事項」を手がかりとした授業実践を考える上で重要になる「言語活動」について研究を行った。そして、言語活動を授業実践にどのように取り入れていくのかについて今後も研修を深めていくことになった。

第1回の教科等研で言語活動を取り入れていく中で課題となることを話し合い、授業展開を考える上で、複数人で話し合う活動をどのように行うかについて話題が集り、言語活動の中でも特にペアやグループでの活動に絞り、授業の中でどのように実践していくのかについて研究することにした。

また、学習指導要領解説に述べられている音楽科における言語活動のポイントには、「生徒の実態とねらいに応じて、多様な学習形態を取り入れ、友達と思いや意図を共有しながら音楽表現をして、協働する喜びが感じられるような授業を展開する」と示されている。

以上のことから、「協働する喜びを感じる」言語活動を中心として研究を行った。

「研究の流れについて」

研究テーマに沿って進めていくために、実践授業における「協働する喜びを感じる」言語活動の具体的な場面を話し合い、以下の3つを考えた。

- ① 小アンサンブルなど様々な編成を工夫して、生徒が表現したい方法や形態を選択して取り組むなど、生徒一人一人が個性を発揮し、主体的に活動できる場面
- ② 合唱や合奏等、学級全員で一つの音楽をつくっていく体験を通して、表現したいイメージを伝え合う場面
- ③ 鑑賞で楽曲の特徴を感じ取る過程で、ねらいに応じて、感じ取ったり気づいたりしたことを音楽の要素と関わらせながら話し合う場面

第1回研修会では、上記の①～③について検討を行い、決定した。

第2回研修会では、①について研究授業を実施した。実践に向け、配慮する事柄についても考え、「生徒の思いや意図を基に音楽の要素と関わらせながら表現活動を行うために、ペアで話し合ったり、全体で発表したりするなどして、感じ取ったことを音楽の要素と関連させながら活動する場を設定する。」などの意見が出された。

第3回研修会では、熊本大学教育学部中学校音楽課程の山崎浩隆准教授をお招きし、新学習指導要領実施に向けての取組み、実践上のポイントについて講話していただいた。

第4回研修会では、上記①～③について各学校での実践の報告会を行った。また、来年度に向けて年間計画及び評価基準について再検討をした。

(2) 成果と課題

「本年度の成果」

- 第1回研修会では、これまでの授業実践を振り返り、できていること、できていないことについて話し合いを行った。多くの意見が出され、研究目標を深めることができた。
- 第2回研修会では、参観授業を行った。創作の実践で、曲をつくるための視点が明記されたワークシートや教師による模範演奏から再考する活動の場などの工夫がされた授業であった。研究協議では、ペアやグループで活動するために教材や教具の工夫の仕方や活動の在り方について検討した。
- ペアやグループで話し合うだけに終わらず、最後にもう一度生徒が一人で考える場面をつくり、自分の意見をまとめる時間を確保することで、生徒がしっかりと考えた上で表現の工夫や感想などを書くことができていた。
- 第3回研修会では、講師を招聘して新学習指導要領に向けての実践についての研修を深めた。具体的な実践事例を多く提示していただき、大変分かりやすく今後の授業改善に役立つ研修会となった。
- 第4回研修会では、研究テーマに沿って言語活動の具体的な場면을3つ考えておくことで、創作や伝統的な歌唱などの新たな分野の実践報告が増え、研究テーマについて議論を深めることができた。
- 新しい教科書に合わせて、年間指導計画を見直した。題材や教材が変更されたので、学習指導要領の目標との整合性や「共通事項」の位置付け方などを検討した。教材ごとに評価や言語活動の取り扱い方等について考え直すことができ、言語活動の焦点化を図る機会となった。

「来年度への課題」

- ▼ 新たに採用された楽曲の指導法について研修を行う必要がある。講師を招聘して夏期研修会を予定している。
- ▼ 実践報告会で、「言語活動」を活かした授業実践について、互いの実践を持ち寄る機会をつくる。特に、教材や教具について実践を出し合う。

4 実践事例

題材 「曲のまとまりを感じ取って表現しよう。」

教材 「主人は冷たい土の中に」 教育芸術社 P.10～P.13

(1) 授業の概要

【参観授業】

1年生の題材「曲のまとまりを感じ取って表現しよう。」の授業が行われた。

本時では、「主人は冷たい土の中に」（教育芸術社 P.10～P.13）に取り組み、歌唱をとおして楽曲の構成を理解した上で、楽曲の一部を創作するという発展的な学習の場面であった。

コード（ドミソ、ファラドなど）を手がかりにして、音を選び旋律をつくる授業展開で、全生徒が旋律をつくることができていた。また、生徒が創作した旋律を教師が演奏することで、生徒自身だけでなく学級全員で創作した曲の確認ができ、教師による評価や助言ができていた。

【研究協議】

成果として、

- 個人やペアの学習形態を工夫することで言語活動がより良い活動になることが分かった。
- 教師による演奏を行うことで、自分で創作した曲がどのようなになったのかを確認できるので、良いと思った。また、他の生徒も聴きながら自分の創作に活かすことができるため、意欲的な活動になると考えられる。

課題として、

- ▼ 音楽は、言葉だけでは伝えられないイメージがあり、それは実際に歌ったり演奏したりすることで伝わることもある。例えば、リコーダーで演奏するなどして生徒が創作した曲を確認できる場面が欲しかった。
- ▼ 教師が演奏することで、教師による評価だけになった。生徒同士で話し合う場やグループ活動も取り入れた方が良い。例えば、前半はグループで創作し後半は各自で創作するなど、段階的に学習を深めるような授業の流れも考えられると思う。

(2) 学習指導案

第1学年3組音楽科 学習指導案

日時 平成29年9月15日(金) 第5校時
場所 第1音楽室 指導者 教諭 上野 伸介

1 単元名 曲のまとまりを感じ取って表現しよう。

(主教材「主人は冷たい土の中に」 教育芸術社P.10～P.13)

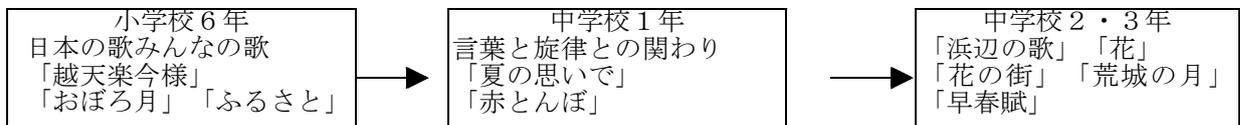
2 題材について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領第1学年【A表現】「(3) ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること」の学習内容である。

本教材「主人は冷たい土の中に」は、aa' ba' の二部形式で構成され、美しい旋律と歌詞が重なり合い、情緒豊かな曲である。小学5年生の教科書では「静かに眠れ」で歌唱しており、和音については、ハ長調のⅠ度、Ⅳ度、Ⅴ度の和音を学習しており生徒にとって親しみやすい楽曲である。形式の特徴を理解し、旋律を創作することに適した教材である。二部形式の構成を知り、創作することの楽しみや喜びを味わわせたい。

(2) 系統観



(3) 生徒の実態

本学級は、男子名、女子名、計名である。全体的に元気で明るいクラスであるが、自分の意見や感想等を発表する場面では消極的になる。7月に実施したアンケートの結果は、次の通りである。

音楽(授業)は好きですか。					
好き	まあまあ	どちらともいえない	あまり好きではない	嫌い	○みんなで歌ったり、合奏するのが好き。 ○音楽を聴くことが好き。
12人	13人	9人	4人	0人	△音符の読み書きが苦手。
31.5%	34.2%	23.6%	10.5%	0人	△発表する(歌ったりする)のが苦手。

(4) 指導上の留意事項

校内研究テーマとの関連について、本題材の単元にあたっては次の点に留意したい。

(基礎的・基本的な知識・技能を培うための工夫)

- ・二部形式について音楽と楽譜で確認する。

(思考力・判断力・表現力を育むための言語活動の工夫)

- ・生徒が試行錯誤しながら旋律を作る場面を設定する。
- ・ペア学習を取り入れ、意見交換する場を設定する。

3 単元の目標

- (1) 二部形式を感じ取ることができる。
- (2) 二部形式の曲を創作することができる。

4 単元の指導計画(2時間取り扱い 本時2/2)

次	学習項目	時数	学習活動
1	二部形式を感じ取る。 続く感じ(半終止)と終わる感じ(完全終止)を感じて創作する。	1	「主人は冷たい土の中に」を4小節ごとに鑑賞し、続く感じが終わる感じが聴き取る。 二部形式を理解し、aの部分の旋律を作る。
2	旋律のまとまりを感じ取り、リズムを使って旋律を作る。	2/2 (本時)	bの部分の和声進行(ⅣⅠⅣ)を示し、構成音を使って旋律を創作する。

5 本時の学習

(1) 目標 旋律のまとまりを感じ取り、リズムを使って旋律を作ることができる。《音楽表現の技能》

(2) 展開

過程	学習活動【学習形態】	○主な発問及び指示 ●予想される生徒の反応	○指導上の留意点と評価 【研究テーマとの関連】	備考
導入 15分	1 楽器の音色を考える。 【一斉】 2 名曲を聴く。【一斉】 3 前時を振り返る。 4 本時の目標を知る。 【一斉】	○何の楽器でしょう。 ●トランペットです。 ○何形式ですか。 ●A(aa')B(ba')の二部形式です。	○目標達成のために [共通事項] を確認する。(旋律、形式、リズム) 【課題設定】	CD
学習課題：bの部分の旋律を作ろう!!				
展開 30分	5 bの部分の旋律づくりをする。【個人】 (1)決められた音を使って旋律づくりをする。 (2)決められた以外も使って旋律づくりをする。 6 創作した曲を発表する。 【一斉】	○bの旋律を作りましょう。 ○前時に創作したフレーズの続きを高音から始まるフレーズを創作しよう。 ○次に決められた以外の音も使って旋律づくりをしよう。 ○自分がイメージしたことや工夫したことも一緒に発表してください。	○ハ長調の3つの和音（I IV V）を言葉や指で確認することで基礎基本を定着させ、本時の課題につなげる。 ○aとbの旋律の違いに気づき、二部形式について知る。 ○和音の進行から旋律を作る。 【自力解決】 ★評価 bの旋律を作ることができる。(ワークシート) ○創作した旋律を互いに知ること、創作の意図を知ることができる。 ○同じ和音やリズムを使っても似た旋律や違う旋律があり、創作することの喜びや楽しさを知る。【共同解決】	ピアノ 教科書 ワークシート
まとめ 5分	7 感想を記入する。 【一斉】	○今日の旋律を作ってみての感想を書きましょう。 ●楽しかった。 ●難しかった。		

【評価基準】 ・ bの旋律を作ることができる。(音楽表現の技能)